

お産対応質の高々◎

仙台市泉区の「とも子助産院」は、第三者評価機関「日本助産評価機構」の適格認定を受けた。お産への対応や妊産婦のケア、スタッフ体制などの厳しい審査基準をクリアし、助産所としての質の高さが認められた。適格認定は全国で4カ所目、東北では初めてとなる。

日本助産評価機構
社団法人日本助産師会、全国助産師教育協議会、日本助産学会の3団体の支援で2007年に設立されたNPO法人。第三者評価機関として、助産専門職大学院の認証評価と、助産所の適格認定を行う。本部は東京。

仙台・泉「とも子助産院」



live
とうほく

サークル活動盛ん

同助産院は、伊藤朋子院長(46)が2000年に開設した。「家族の事情に合わせた温かいお産」を理念に、伊藤さんら助産師10人を含むスタッフ約30人

適格認定 全国で4例目

で運営。年間約60件のお産を扱って、組織の管理体制や分娩

お産のリハールや母乳による育児といった講座のほか、ヨガ、「妊婦ゴスペル隊」などのサークル活動、乳児の預かりなど、お産以外の活動も盛んだ。

東日本大震災後は、助産師教育の教材に使う乳房模型作りを被災した女性の収入につなげる「毛糸のおっぱいプロジェクト」にも取り組んでいる。

助産所の適格認定は、企業が食品の安全管理や環境マネジメントで取得する国際規格ISOのいわば助産所版。助産所の質などについて第三者機関の評価を得ることで、助産所にとっては社会的な信用を得られるなどのメリットがある。

同助産院は10年9月、評価を受けるための登録をした。書

日本助産評価機構の認定証を前に、スタッフや母子と話す伊藤さん(中央)

類審査や評価員の現地調査を経て、組織の管理体制や分娩(ぶんべん)・診察対応、妊婦と新生児のケアなど約130項目を満たしているとして、12年10月に認定証が交付された。

「第三者から高い評価を受けることができてうれしい」と伊藤さん。助産所は高齢の助産師が家に向いて赤ちゃんを取り上げるといった昔のイメージで見られがちだが、「助産所が現代医療を活用し、時代に即したケアを提供していることを、認定の取得を通じて広く知ってほしい」と期待する。

同機構の石川紀子助産実践評価部長は「とも子助産院は、スタッフが担当チームごとに工夫し、助産院が掲げる理念を実践している。妊婦のゴスペル隊などは例がないユニークな取り組みで、その他の多様な活動も評価できる」と語る。

130項目 クリア 「温かいケア今後も」

5年ごとに再審査
適格認定は、10年のみやした助産院(横浜市)を皮切りに、11年には、ぼっこ助産院(高松市)、中島助産院(埼玉県熊谷市)の3カ所が取得している。評価結果は同機構のホームページで公開しており、5年ごとに再審査を受ける。

厚生労働省によると、分娩を取り扱う全国の助産所は474カ所(12年3月末現在)。東北は青森3カ所、宮城3カ所、秋田12カ所、福島4カ所、岩手と山形はゼロ。東京の98カ所など都市部に多い傾向がある。

適格認定の審査期間は半年〜1年半を要する。認定まで同機構が助言するものの、提出書類の多さなど、個人経営の助産所にとってはハードルは高い。

加納尚美理事長は「認定を受けるのは簡単ではないが、質の高い助産所を増やすことで、妊産婦が今以上に安心して助産所を利用できるようにしたい」と話す。

とも子助産院は仙台市泉区野村字野村95の6、022(772)59960。

(生活文化部・渡辺ゆき)